

2026人権セミナー

〈 映画上映会+信友直子監督講演会 〉

ぴあ映画 初日満足度1位 (11月3日が調べ)

文部科学省 特別選定映画

厚生労働省 推薦映画

認知症の母と耳の遠い父と離れて暮らす私—

ぼけますから、

Documentary映画 よろしくお願ひします。

広島県呉市。泣きながら撮った1200日の記録



監督・撮影・語り
ひとり娘 信友直子

プロデューサー：大島 新 演出 共同プロデューサー：前田亜紀 堀 治樹 山口浩史
編集：目見田 健 実景撮影：南 幸男 音響効果：金田智子 ライン編集：池田 聡 整音：富永憲一
配給宣伝協力：ホレボレ東中野 ウッキー・プロダクション 製作・配給：ネツゲン フジテレビ 関西テレビ
2018年/日本/カラー/102分/©「ぼけますから、よろしくお願ひします。」製作・配給委員会

www.bokemasu.com



映画上映後
信友直子監督の
講演があります

スケジュール

- ◆12:30 開場
- ◆13:00 開会

13:10~15:00

《映画上映会》

- ◆15:10~15:40
信友直子さん(監督)講演
- ◆15:40~16:00
質疑応答
- ◆16:10 閉会

先着
600名

2026年
8月28日 金

栃木市大平文化会館

栃木市大平町蔵井2001-3
TEL 0282-43-5232

※駐車場は台数に限りがありますので、
なるべく乗り合わせて、ご来場下さい。

入場無料(予約不要)

■ 主催／部落解放同盟栃木市協議会 ■ 共催／栃木市・栃木市教育委員会

問合先

- 部落解放同盟栃木県連合会 TEL 0285-23-2215
- 栃木市生活環境部人権・男女共同参画課 TEL 0282-21-2161



カメを向けて初めて気づいた。 両親がお互いを思い合っているということ。

母、87歳、認知症。

父、95歳、初めての家事。

広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めめめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ファイナダーを通し、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしがやる。あんたはあんたの仕事のせい」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—

**大反響のテレビドキュメンタリー、
待望の映画化。**

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ/関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。



港町呉は坂の多い町でもあります。買い物するにも一苦労。結婚以来、父と母はずっとここで暮らしてきました。



ひとり娘
ドキュメンタリー監督
信友直子

1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。



涙。椅子から立てないくらいの衝撃でした。(56歳女性)

いまだに涙がとまりません。思いやりが人生を豊かにすること。忘れずに生きていきたいです。(49歳女性)

まるでお家にお邪魔しているように。心がキュッと苦しくなったり、ぽっ、と心が温かくなったり。(29歳女性)

お三方の声のなんと優しいこと。こんな優しさに満ちた声の響きを聞いたことはありませんでした。(74歳男性)

番組にいただいた感想の一部です

考えさせられます。夫婦とは家族とは老いるとは…娘さんの泣きながらの撮影にもう泣きました。(55歳女性)



ドキュメンタリー映画

ぼけますから、よろしくお願いします。

こころ和み、みんな笑顔のあったか“とちぎ”

8月は人権教育・啓発推進県民運動強調月間です